

千代田化工建設グループ 中期経営計画(2013~2016) ~「時代を捉え、時代を拓く」~

2013年5月10日

千代田化工建設株式会社

INDEX

- 1.経営理念・経営ビジョン・中計「時代を捉え、時代を拓く」のコンセプト
- 2.「変革と創造2012」の振り返り
- 3.外部環境の変化・動向
- 4.10年後のあるべき姿
- 5.基本戦略
- 6.定量目標(利益計画)
- 7.資本計画・投資戦略
- 8.要員計画

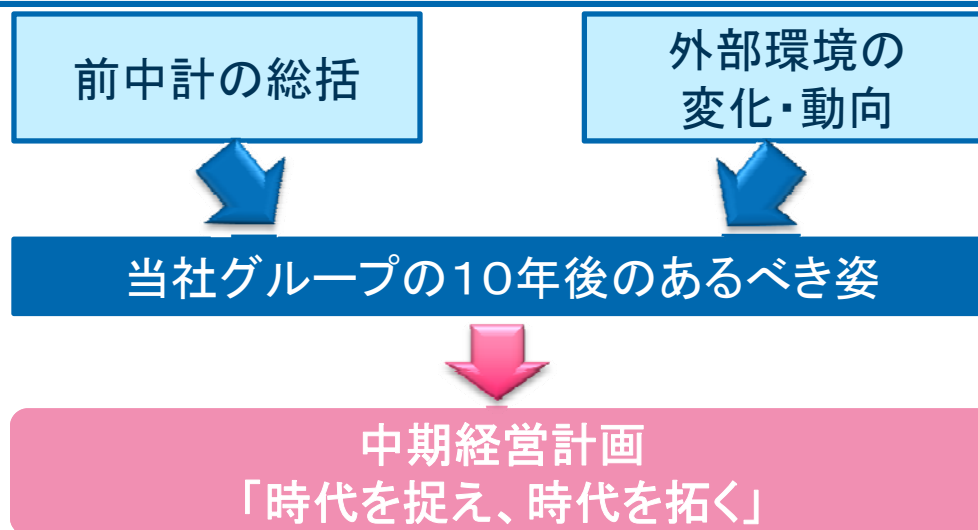
1. 経営理念・経営ビジョン・中計「時代を捉え、時代を拓く」のコンセプト

◆経営理念◆

総合エンジニアリング企業として、
英知を結集し研鑽された技術を駆使してエネルギーと環境の調和を目指して
事業の充実を図り、持続可能な社会の発展に貢献する。

◆経営ビジョン◆

千代田化工建設グループは、時代の要請を捉え、新しい時代を拓く価値を創造する、
世界で最も信頼性の高いプロジェクト・カンパニーとしての
地位を確立するとともに、高度なエンジニアリング能力を様々な分野で発揮し、
「収益成長企業」として持続的に発展する。



- (1) 中長期目線(10年後)のグループの姿を定め、新中計はその「あるべき姿」に向けての前半4年間のアクションを提示
(2) 足元の外部環境変化のチャンスを最大限享受し、定量目標を達成

2. 「変革と創造2012」の振り返り

達成状況

コア事業の更なる強化

- LNG受注・遂行(パプアニューギニア・イクシス<豪>)。
 - 遂行力強化へ協業／提携(CTCI、Toyo-Thai等)
- ⇒競争力・遂行力の更なる強化、コア人材育成と増強、オフショア分野強化

バランスのとれたポートフォリオ構築

- 国内顧客の海外進出案件(多結晶シリコン、非鉄精錬等)
 - 新エネルギー取組強化(太陽光／太陽熱発電等)
- ⇒グループ全体のリソース・要員配分最適化・Non-EPCビジネスの取組み強化

グループ連結経営の強化

- 地域拠点の整備・拡充(アジア・中東): 地場に根付き中小案件の取組強化
 - 国内グループ企業再編: コア機能の吸収合併、子会社の統合
- ⇒業務遂行インフラの更なる整備

活かに溢れた組織風土作りと人材育成

- 「強い会社、強い社員」を目指す意識改革運動実行
 - 人事制度改定と若手育成策実施
- ⇒グループ全体のリソース管理、基幹管理システム(ERP)を活用したデータマネジメントの実践

2. 「変革と創造2012」の振り返り

達成状況

連結純利益: 160億円(2012年度)

投資実行額: 約200億円

成長戦略投資

- ・新分野: 太陽熱発電分野への進出(Archimede Solar Energy)
- ・資本業務提携: CTCI、Toyo-Thai
- ・事業投資: 太陽光発電事業

経営基盤強化

- ・拠点(インドネシア拠点・中東拠点)の整備、既存拠点・グループ企業の拡充
- ・基幹システム刷新、オフィス移転

研究開発投資

- ・酢酸ライセンス供与の実現等、事業化を念頭に置いた研究開発の実施
- ・水素輸送実証プラントの建設、実証フェーズへ

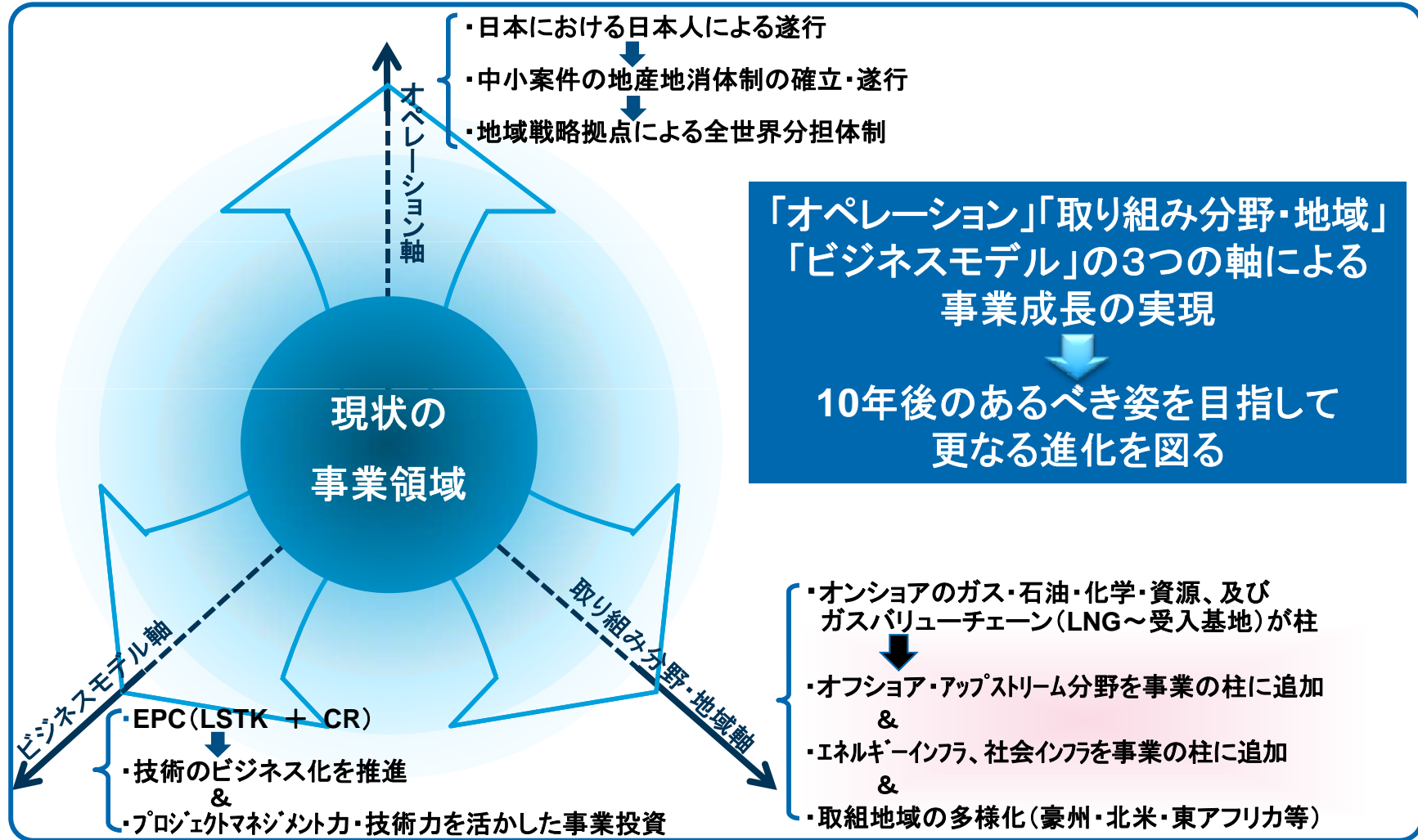
「変革と創造2012」で蒔いた種を育て、
中計「時代を捉え、時代を拓く」で成長を加速

3. 外部環境の変化・動向

- ① エネルギー需要の構造変化
(ガスシフト、再生可能エネルギー)
- ② シェール革命の進展・北米市場の活性化
- ③ 難易度の高い地域での開発増、厳しい環境規制
- ④ 競争環境の激化
- ⑤ 新興国の台頭とNOC存在感の高まり
- ⑥ 国内顧客の海外進出加速

4. 10年後のあるべき姿

① 当社グループの進化の方向性



※LSTK:ランプサムターンキー型(固定金額による一括請負)契約
CR:コストレインパース型(出来高に基づく実費償還)契約

4. 10年後のあるべき姿

②10年後の当社グループの姿

◆「コントラクター」という業態を核にしつつ様々な分野でエンジニアリング能力を発揮し、ステークホルダーの満足を高めて、グループが進化

- ・根底の価値観:「最後までやり抜き顧客の期待を裏切らない。その為の努力を重視する。」
- ・この価値観をグローバルに共有、「千代田グループ」としてのクオリティを担保
- ・顧客の挑戦／ニーズにソリューションやサービスを提供

◆新興国・途上国への貢献が深化

- ・資源開発、社会インフラ整備、人材育成、事業投資などにより貢献

◆安全と社員の健康を最重視する文化が更に浸透

- ・安全な業務遂行と社員の健康を最重視したマネジメント

◆ビジネス・ポートフォリオが多様化

- ・「プロジェクトマネジメント能力」の強みをEPC(ランプサムターンキー)以外の場でも発揮
- ・事業計画の変動・契約形態の変化にも対応できるリソースの持ち方と業務の仕方が確立
- ・LNG、オフショア、アップストリーム、石油、化学、エネルギーインフラ、社会インフラ、一般産業、事業投資の夫々を収益源として確保

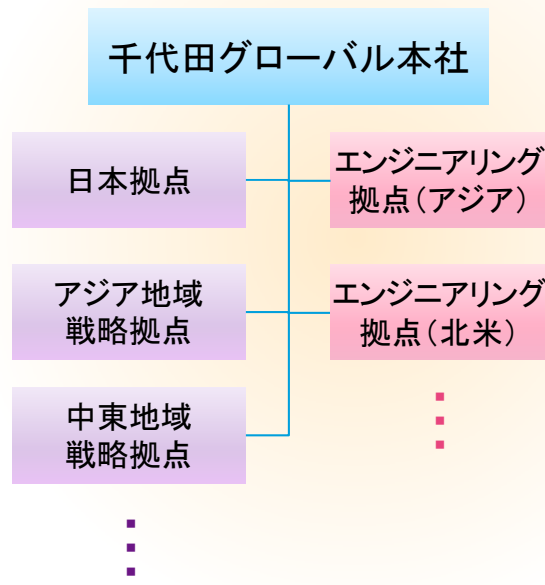
◆オペレーション全世界分担体制が定着

- ・各拠点が地場案件のみならず、CGH(Chiyoda Global Headquarters)と協働/分担でオペレーションを担う

4. 10年後のあるべき姿

③グローバルな遂行体制の確立

CGH(Chiyoda Global Headquarters)・CRH(Chiyoda Regional Headquarters)を核とした
グローバル遂行体制を構築し、複数拠点における分散遂行を実現
(CGH基本戦略の下、地域・事業分野・機能に基づくグローバルな分散遂行体制)



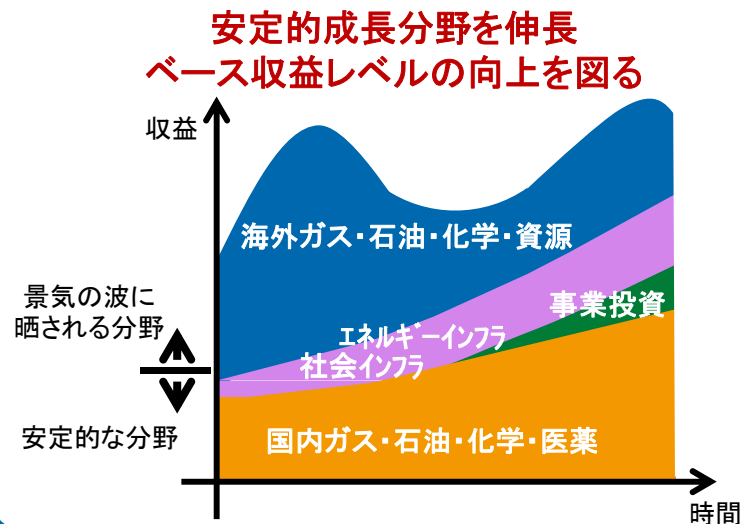
<各拠点の役割>

- グローバル本社(CGH):**
グループの統括(司令塔)機能
先端技術/事業開発、高度なエンジニアリング機能提供
- 各地域戦略拠点(CRH):**
各地域でのプロジェクトマネジメント遂行拠点
- エンジニアリング拠点:**
エンジニアリング/プロジェクトマネジメント機能提供
現行の拠点を核とし、更に拡充(機能・要員)
⇒各拠点間で要員が柔軟に相互交流する体制

5. 基本戦略

成長戦略

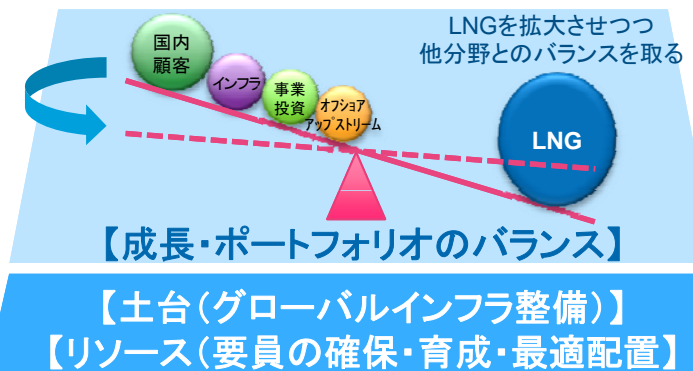
- ①コア事業強化
- ②新分野の取組み、新たな収益の柱・ビジネスモデル構築
- ③顧客対応の高度化
(顧客ニーズ汲み取り・事業化支援)
- ④新興国市場の取り込み
- ⑤事業投資の加速



基盤整備

- ⑥競争力、遂行力強化
- ⑦データマネジメントインフラの整備と運用
- ⑧連結経営、グローバルオペレーション推進
- ⑨人材確保・育成、要員配置最適化、力を発揮できる会社へ進化
- ⑩安全・リスクマネジメントの強化、健康文化の浸透

成長戦略実現の為
土台を確実に固める



5. 基本戦略

①成長戦略

足元の外部環境(ガスシフト・LNG需要の「追い風」)は好機
ガス・LNG分野(当社グループのコア事業)の取り組みを更に強化
オフショア、アップストリーム進出と事業投資の加速

①コア事業強化

- ・LNGの事業機会は最大限追求
- ・高難易度プロジェクト(Floating LNG、寒冷地・深海など)への取り組み

②新分野の取組み、新たな収益の柱・ビジネスモデル構築

- ・オフショア、アップストリーム分野へ進出
- ・新エネルギー、再生可能エネルギー分野の強化・拡大

③顧客対応の高度化 (顧客ニーズ汲み取り・事業化支援)

- ・本邦企業の海外進出ニーズ徹底フォロー
- ・プロフェッショナルサービス提供型ビジネスを強化し、IOCに近い拠点でフロントエンド機能の提供

④新興国市場の取り込み

- ・各地域の中小案件取り込み
- ・グループ企業主体EPC遂行への移行

⑤事業投資の加速

- ・当社の強みを生かせる分野での事業投資の加速

5. 基本戦略

②基盤整備

成長戦略実現に向け、足場固めを継続
グローバルな競争力・遂行力の獲得・研鑽、オペレーションインフラの整備
全世界ベースでグループ要員の流動化と最適配置、リスクマネジメントの強化

⑥競争力、遂行力強化

- ・競合先に打ち勝つ競争力実現、プロジェクト遂行力の継続的向上

⑦データマネジメントインフラの整備と運用

- ・経営基幹システム(ERP)、プロジェクトデータの管理・活用 グローバルなプラットフォーム構築

⑧連結経営、グローバルオペレーション推進

- ・グローバルリソース活用の為のグローバル人事諸制度整備

⑨人材確保・育成、要員配置最適化、力を発揮できる会社への進化

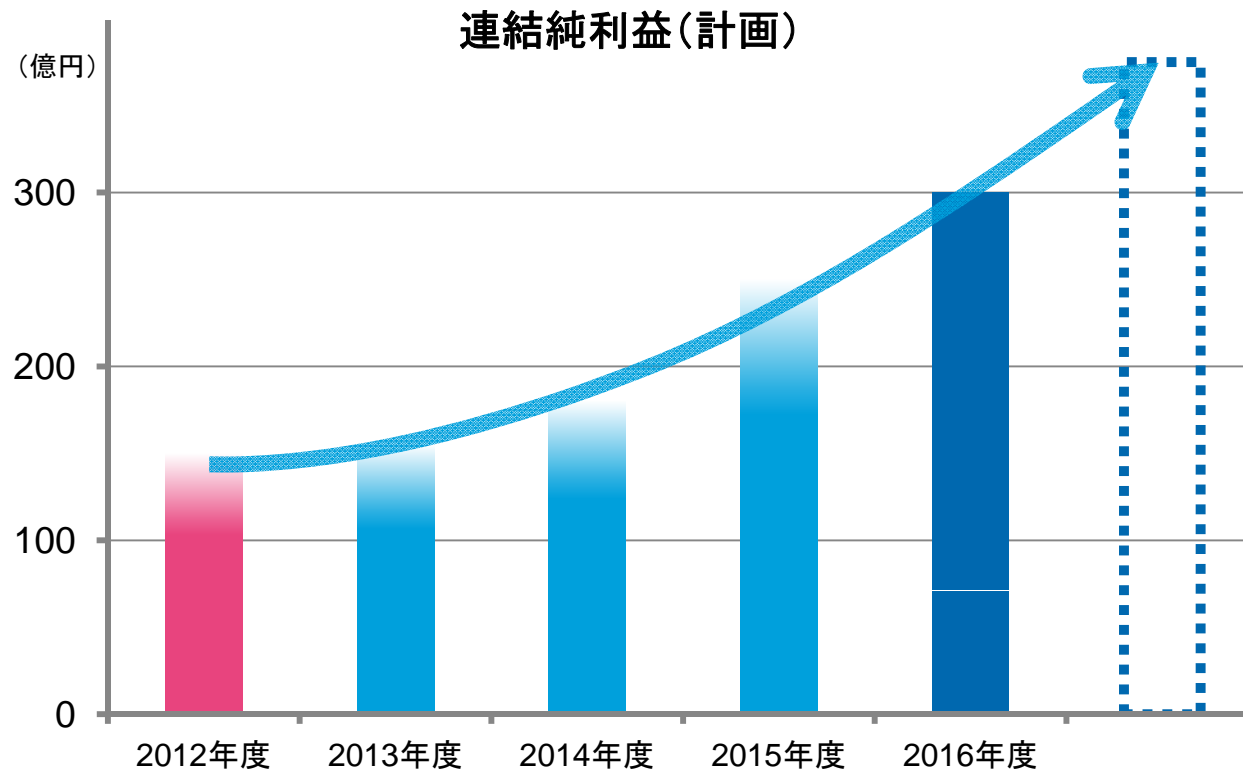
- ・プロジェクトキーパーソンの育成、増員、拠点間の異動促進
- ・国籍・性別・年齢等に関わりなく働きやすい、また力を発揮できる会社への進化

⑩安全・リスクマネジメントの強化、健康文化の浸透、

- ・外部環境の変化や時代の変化に対応した、リスクマネジメント体制の整備
- ・従業員の健康文化の浸透

6. 定量目標(利益計画)

連結純利益(2017年3月期): 300億円
～成長戦略と基盤整備の夫々の施策により実現～



7. 資本計画・投資戦略

資本計画

- 資本効率・収益性: ROE 12%以上
- 配当性向: 30%以上

投資戦略

① 基本方針

- 当社の成長戦略、基盤強化、収益拡大・安定に寄与する投資を実行
- 投資先⇒当社の強みを発揮できる分野
Value Chainの延長線上にあり、一定のリターンを確保できる事業

② 投資分野

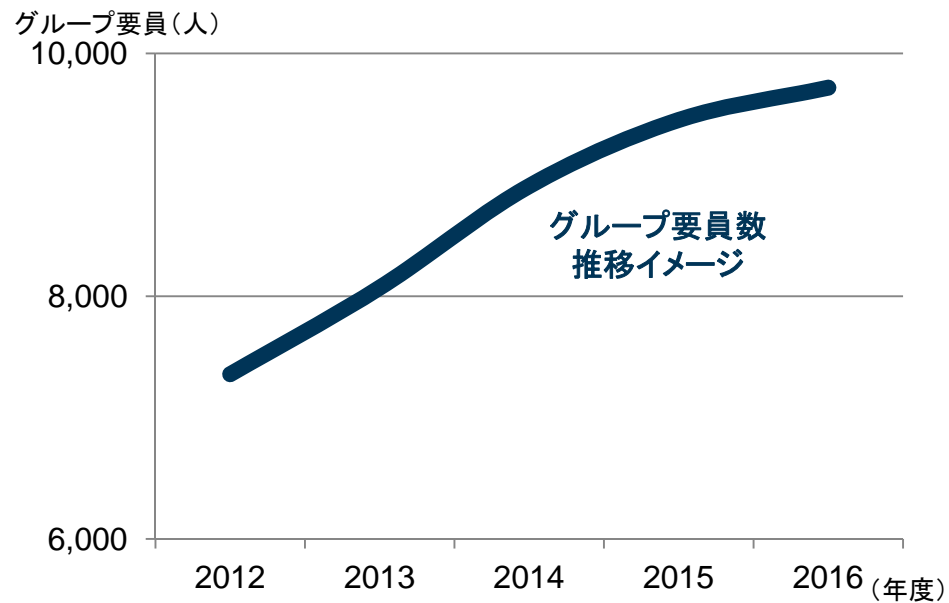
- 次世代の柱: 新分野進出(オフショア、アップストリーム)、新技術案件(水素輸送)
- 安定的な収益貢献分野(アセットビジネス等)
- 経営基盤強化(要員・拠点整備、競争力向上、等)

③ 投資規模

- 4年間累計で約800億円程度

8. 要員計画

- CGH業務の高度化を図りつつ、遂行要員は主にグループ各社の要員増強で対応
 - ⇒当社グループにおける事業遂行の比重が徐々に連結グループ会社へ移行
 - ⇒データマネジメントによるプロジェクトマネジメント能力の水平展開



「時代を捉え、時代を拓く」



All Right Reserved. CHIYODA 2013



【お問い合わせ先】

千代田化工建設株式会社

IR・広報セクションSL 中山 直行

〒220-8765 横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
みなとみらいグランドセントラルタワー

TEL. 045-225-7734 FAX. 045-225-4962

URL <https://www.chiyoda-corp.com/contact/index.php>

この資料には、2013年5月10日現在の将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。
経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。